

令和6年度 学校総合評価

6 今年度の重点目標に対する総合評価

本校では、次の2項目（(1)学習活動 (2)専門性の向上）においてそれぞれ重点課題を定め、今年度のアクションプランとして取り組んだ。

(1) 学習活動（訪問教育）「グループ学習や学校行事等での交流活動を通じた取組」

訪問教育の児童生徒は富山病院重心病棟に入院または通所サービスを利用しており、重度・重複障害があることに加え、高度な医療的ケアを必要とする者が多い。コロナ禍以前は車椅子に移乗できる児童生徒が病室や病棟内で集団学習したり、登校できる児童生徒が学校で一緒に学習したりしており、通学生の児童生徒とも機会を設けて交流していた。コロナ禍の時期にICTを活用しオンラインで学習や学校行事に参加する経験をしたことで、画面越しの友達や教師の声などに意識を向ける様子が見られる児童生徒が増えた。

今年度、車椅子に移乗できる児童生徒が病室や廊下を移動して同じ病棟の友達と挨拶をしたり、訪問病棟から学校へ登校可能な児童生徒が別病棟から毎日歩いて登校している児童生徒と一緒に学校で学習したりする機会をもつことができた。そこで、友達と関わろうとする意欲やコミュニケーション能力の向上を目的として交流学習の幅を広げる取り組みを行ったところ、お互いに意識したり、自分に自信をもち相手を認めて尊重したりする様子が見られ、意欲的に学びを広げたり深めたりすることにつながった。

(2) 専門性の向上「病弱特別支援学校の自立活動における指導力の向上」

本校には心身症や適応障害等の精神的な疾患を有する児童生徒が多く在籍し、前籍校で長期欠席や相談室登校等を経験した児童生徒が多い。自立活動の指導について、実態把握や目標設定、具体的な指導内容・方法等について学びたいと感じている教師が多い。まずは児童生徒の実態把握について、現在のアセスメントシート等をもっと活用しやすいものにしたとの意見から、外部講師を招聘して研修会を行い、校内で検討会を設けながら「実態把握シート」の作成に取り組んだ。

7 次年度へ向けての課題と方策

(1) 本校の児童生徒が入院しながら学習しているという観点から、学校の活動で見せている姿をいかにタイムリーに家庭に知らせながら継続していくか、家庭への情報発信についての工夫が求められる。

(2) 次年度は「実態把握シート」を小中高共通なシートにすべきか、年齢に応じたシートにすべきかについて、また学校と病院とのカンファレンスで使いやすいシートになるよう検討していく必要がある。

8 学校アクションプラン

令和6年度 富山県立ふるさと支援学校アクションプラン —1—	
重点項目	学習活動(訪問教育)
重点課題	グループ学習や学校行事等での交流活動を通じた取組
現 状	<p>○訪問教育の児童生徒は富山病院重心病棟に入院または通所サービスを利用しており、重度・重複障害があることに加え、高度な医療的ケアを必要とする者が多い。</p> <p>○活動する場所や内容等に制約があるが、コロナ禍以前は車椅子に移乗できる児童生徒が病室や病棟内で集団学習したり、登校できる児童生徒が学校で一緒に学習したりしていた。また、通学生の児童生徒とも機会を設けて交流していた。</p> <p>○コロナ禍の時期や感染症予防対策の為病棟での活動に制限のあった時期は、授業にICTを活用しオンラインで学習や学校行事に参加する経験をしたことで、画面越しの友達や教師の声などに意識を向ける様子が見られる児童生徒が増えた。</p> <p>○今年度、車椅子に移乗できる児童生徒が病室や病棟内を移動して友達と挨拶をしたり、一緒に学習したりすることができるようになった。</p> <p>○通学生の児童生徒が、重心病棟に入って交流活動を行うことはまだ難しい。</p>
達成目標	<p>○年間を通じたグループ学習の実施</p> <p>○通学生の児童生徒との交流活動の実施 年間10回以上</p>
方 策	<p>○車椅子に移乗できる児童生徒が病室や病棟内を移動して友達の所へ行き、挨拶をしたり、音楽活動や制作活動、ゲーム活動などを一緒に行ったりする。</p> <p>○病室や病棟が違う複数の訪問教育の児童生徒の授業において、オンラインで音楽活動や制作活動、ゲーム活動などを一緒に行う。</p> <p>○学校に登校したり、ICT機器を用いたオンラインやビデオを活用したりして、学校行事や授業に参加する。</p>
達 成 度	<p>○週に1回程度のグループ学習を、継続的に実施。</p> <p>○通学生の児童生徒との交流活動を、年間20回実施。</p>
具体的な取組状況	<p>○訪問教育グループ学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遊びの指導4グループ、生活単元学習2グループが、週に1回程度友達の所へ行ったり、オンラインでつながったりして、器楽演奏や制作等の活動を一緒に行った。 <p>○通学生の児童生徒との交流</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動会3回…競技練習に2回(5/1、8)参加。(通所児童1名登校) 当日競技(5/11)に参加。(通所児童1名登校、病棟児童生徒オンライン) ・レクリエーション大会2回…ゲーム(5/29)に参加。(通所児童2名登校) ゲーム(12/18)に参加。(病棟生徒2名登校) ・さわやか運動3回…執行部とさわやか運動事前(6/3～)にビデオ交流。さわやか運動(6/24～、10/21～)に挨拶ビデオ交流。 ・読書の集い…読み聞かせビデオを視聴(9/2～)し、当日絵本クイズ(9/18)に参加。(通所児童2名登校) 読み聞かせビデオを視聴。(9/2～)(病棟児童生徒) ・楽しいお話の会…当日読み聞かせ会(1/15)に参加。(病棟生徒1名登校、通所児童2名、病棟生徒1名オンライン) 読み聞かせビデオを視聴。(1/16～)(病棟児童生徒) ・創立50周年記念作品制作5回…作品の額装交流(9/11、20、10/11、18、21)に参加。(通学生が通所や病棟を訪問) ・通所A児と中学部B生との活動5回…手紙交流2回(5/17、6/12)実施。クイズ交流(7/12)に参加。(B生が通所を訪問) 誕生会交流に2回(9/20、30)参加。(B生が通所を訪問、通所児童が登校各1回)
評 価	<p>A 訪問教育の児童生徒同士、訪問教育と通学生の児童生徒の協働的な活動経験から、どちらもお互いに意識したり、自分に自信をもち相手を認めて尊重したりすることができた。また、意欲的に学びを広げたり、深めたりすることにつながった。</p>
学校関係者の意見	<p>アクションプランの実践の背景として、学校が一つとなり、全体で協力して取り組んでいたことがうかがえた。活動の支援をきめ細やかに行っている様子がよく分かり、今までの活動の積み重ねで児童生徒が身に付けてきた力が、交流活動の場面で生かされていた。</p>
次年度へ向けての課題	<p>家庭との連絡を密にし、児童生徒が学校の活動で見せている素晴らしい姿をタイムリーに伝えながら取組を継続することが望ましい。</p>

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

令和6年度 富山県立ふるさと支援学校アクションプラン —2—

重点項目	専門性の向上(教育環境部)	
重点課題	病弱特別支援学校の自立活動における指導力の向上	
現 状	<p>○小・中・高等部には、心身症や適応障害等の精神的な疾患を有する児童生徒が多く在籍している。ほとんどの児童生徒が、前籍校で長期欠席や相談室登校等を経験しており、自己理解や人間関係づくりにおいて課題を抱えている。自己肯定感の低さ、学習空白による学習の遅れへの不安も多く見受けられる。訪問教育の児童生徒は、重度・重複障害があり、自立活動を主とした教育課程で学んでいるが、重度化が進み、指導が難しくなっている。</p> <p>○自立活動の指導について、実態把握や目標設定、具体的な指導内容・方法等について学びたいと感じている教師が多い。また、実態把握について、現在のアセスメントシート等をもっと活用しやすいものにしたいと考えている教師も多い。</p> <p>○自立活動の指導は、時間の指導以外にも学校の教育活動全体を通じて取り組むべき指導であるが、教師間の連携が十分でない場合がある。</p>	
達成目標	<p>○動画視聴や外部講師より、児童生徒の障害や病気の状態、実態把握の方法について学ぶ。(年間4回以上)</p> <p>○目標設定の根拠となりうる校内の「実態把握シート」の作成に取り組む。</p>	
方 策	<p>○学校課題について共通理解し、校内での自立活動の取組について意見交換する。</p> <p>○動画視聴や外部講師より、児童生徒の障害や病気の状態、実態把握の方法について学ぶ機会を設ける。</p> <p>○様々な実態把握の方法を用いて、実際に生徒の実態把握や自立活動の目標設定を行い、「実態把握シート」の様式を検討する。</p> <p>○計画的に研修日を設けて研修を進め、研究の経過や成果を共有するために報告会を実施し、意見交換する。</p>	
達成度	<p>動画視聴や外部講師による児童生徒の障害や病気の状態、実態把握の方法について学ぶ機会(年間7回)</p> <p>目標設定の根拠となりうる校内の「実態把握シート」を作成</p>	
具体的な取組状況	<p>○意見交換：アンケート(自立活動の指導において困っていることや取り組みたいこと)の実施(4/25)、アンケート結果についての意見交換。(5/17)</p> <p>○外部講師等による研修会：全体研修会(8/27)、障害種別研修会(訪問 7/9、高等部 7/10、小中学部 7/19)、動画視聴(小中高 6/26)、リハビリ研修会(訪問 ①5～7月、②11月)</p> <p>○各学部で月1回研究会を行い、「実態把握シート」の様式を検討。 訪問教育：既存の「ふるさと版発達課題チェックリスト」の改訂。 小中学部：本校に合った実態把握シートを検討。Co-MaMe、自立活動のためのチェックシート、自分メーターの三つを選択し、部分的に改良。 高等部：Co-MaMeの各項目に対応する自立活動の6区分について検討。 既存の実態把握表の作成手順の見直し。</p> <p>○情報共有：各学部の研究会後に担当者で情報共有を行った。</p>	
評 価	B	<p>外部講師等による研修会により、児童生徒の障害や病気の状態、実態把握の方法について基本的な知識を高めることができた。「実態把握シート」の作成は、どの学部も本校の児童生徒の実態に合う「実態把握シート」の作成に取り組んだ。ある程度見通しを立てることができる段階までできてはいるものの、もう少し検討の必要がある。本校の自立活動の基盤となる「実態把握シート」となるよう、引き続き検討を重ねていきたい。</p>
学校関係者の意見	<p>自立活動の指導に悩んでいる教師にとって実態把握シートは、指導・支援を行う上で参考となるものである一方、表面的な実態把握にならないか心配である。児童生徒の実態の背景も考えて一人一人に応じた目標設定、指導をしてほしい。</p>	
次年度へ向けての課題	<p>医療側の視点、教育側の視点の両方から児童生徒を支援していくために、カンファレンス等で実態把握シートを提示して、病院と学校の情報共有を図っていただけるとよい。 実態把握シートを小中高共通なものにすべきか、年齢に応じたシートが良いのか、今後検討していく必要がある。</p>	

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)